発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,834人
男子	3,374人
女子	3,460人
世帯数	2,037戸

（9年12月末現在）

人々が生き、生かしあう公民館活動をめざして

竜丘公民館長　木下陸奥

元旦の夜明けはおだやかな朝でありました。

今年一年間、世の中が今朝のように穏やかで、どなたも健康でありたいという思いを強くしました。

さて、昨年は公民館が発足して五十年を経てそれぞれふさわしい記念行事が行われてまいりました。

当竜丘では、文化祭においての多くのふれあいをもつイベント、また継続されていますが「丘の語部たち」の刊行等々がありました。

現代の社会状況からしてもっとも大事なことは、地域の人々が温かくふれあい豊かな文化を一人一人の中に創造し、それを子どもたちに伝えて行くことだと思います。

竜丘には、昔から進取の精神と文化を尊重する気風が旺盛であるといわれてまいりました。それは、竜丘の自然風土と人々の文化への憧憬がそうさせてきていると思います。

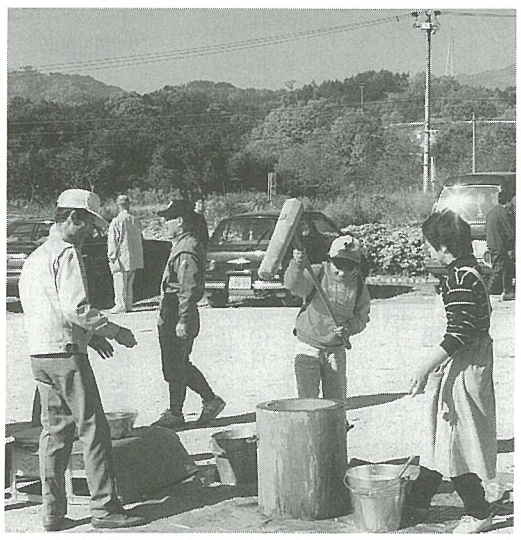
昨年の公民館活動を振り返ってみますと、それぞれの行事に集う人々が寄せ合う意識に、一体感と盛り上げていく、力強いものを見ることができます。また、文化祭の折に見られた『古墳を見る会』などは、地味ではあるが、竜丘の特色を生かしたすばらしいものであったと思います。

今年度は、さらに工夫を凝らし地域の方々の協力をいただき、体育的な行事の振興はもちろんのこと、文化面の向上にいっそう力を入れていきたいと思います。

竜丘には、ありがたいことに多方面にわたって、その道に長けている方々が多くおられます。また、地域振興に意欲的な方々がこれまた大勢おられます。

これらの人々の力をお借りし、行事に積極的に取り入れていきたいと思います。

公民館は、地域みんなのものであることを基調にして努力してまいります。


「古墳を見る会」市民農園でもちつき

前館長 田中興さん 全国表彰受賞

去る十二月四日、東京赤坂プリンスホテルにおいて、第四十六回全国公民館振興大会が開催され、桐林の田中興さんが「全国優良公民館職員」の表彰を受けられました。

この表彰は、十年程前に「全国優良公民館」として飯田市公民館が受けたことがありますが、職員個人としての受賞は初めてです。

この大会は、全国公民館連合会と公民館振興市町村連盟の主催で毎年開かれているもので、館長を十年以上、県の役員も務めた人がこの賞に推薦されます。

田中さんは、竜丘公民館長を十二年三ケ月務められ、平成五年からの四年間は飯田市公民館長も兼務、その間長野県公民館運営協議会の副会長も務められました。

この大会での受賞者が県で一人、全国でも三十二人ということをみても、田中さんの受賞は公民館活動において誇りであり、励みになるのではないでしょうか。

受賞のご挨拶

新春を迎え竜丘の皆様の健康とご多幸を心よりお祈り申上げます。

さて不肖私、昨年十二月全国公民館優良職員として受賞の栄に浴することができました。

これ一重に十二年余にわたりまして、「館長が止めれば俺たちも止める」と支えて下さった歴代公民館役員をはじめ自治会、関係団体、更に竜丘全地区民のご支援、ご厚情の賜と心より感謝し、御礼申し上げます。

新年を迎え「大人の学校」百人一首にとられる

去る一月二十二日、竜丘公民館に於いて、新年を迎え初めての「大人の学校」が、「百人一首にとられる」と題して開講しました。

「大人の学校」は現在九十余名で活動しています。七月を新年度として、「俳句にふれる」「ふる里学習」「おやきで忘年会」など様々な活動をしてきました。講座は月一回のペースで開かれ、今後は「折紙教室」「文集づくり」「修学旅行」などが予定されています。

また、学校の名称通り、六名づつの班編成がされており、講座の前に「始めの会」を行なう他、当番の班長は記録を取るなど、さながら学校そのものといった感じです。

さて当日は、塩沢義男さん（駄科）のハーモニカ伴奏にあわせ、学級歌の斉唱により開講しました。校長である木下公民館長の挨拶に続き、二名の新入生の紹介があり、いよいよ実技実習です。

まず「竜丘かるたクラブ」の関島アキ子さん（長野原）が、クラブの紹介と競技の説明をしました。竜丘かるたクラブは発足十年目で、毎月二十日、駄科公民館を借りて活動しています。会員は約二十名で、最高齢者は九十三歳とのことでした。

競技は、四人がひとつのグループとなり、それぞれ二十五枚の札を自分の前に置く形式で行なわれ、読み手、池田春子さん（駄科）が務めました。

普段やり慣れていない事から、「お手付きも、おとがめなし」の特別ルールが用いられましたが、下の句が読み終わっても、なかなか手が延びない場面も見られました。それでも自分の得意な歌が読まれると、即座にハイと声が上がるなど、和気藹々（あいあい）の内に閉講となりました。

講座の後は、新年会で楽しい時を過ごしました。最後に気になっていた「百人一首にとられる」の、タイトルについて聞いてみると、百人一首は、大抵自分はあまり取れず、相手に沢山とられるところからつけたとのことでした。皆さん元気で、益々の活躍を期待します。

オリンピックの成功を願って

駄科　小林さやか

私が長野冬季オリンピック聖火リレーの伴走者に立候補したのは母のすすめでもありました。やってみたいという気持ちはあったけど、恥しいという気持ちもありました。でも二度とこんなチャンスはないだろうと思いおもいきってやってみようと思いました。

当日二十四日は朝から雪が降っていてがっかりしてしまいました。私が走る所は下り坂なので転んでしまわないかと心配しましたが、走る前は緊張せずにリラックスできました。いよいよ本番です。本番は三時で、まだ雪は降り続き、寒くて最悪の天候でしたが大勢の人達が見に来てくれていました。

ギリシャからの火が私達の手元に来ました。沿道からは、「頑張って」などとあたたかい声援をおくってもらいました。中でも家族、おじ・おば・祖父・祖母は特にはりきって応援してくれました。走った距離はたった一・一㎞だけで短かかったけど初めて会った人とも笑顔で走ったり、一緒に手を振ったり、声をかけあったりして、六人が一つになり走りきれた喜びはとても大きかったです。皆最後まで、笑顔でギリシャの火を次の人に渡すことができて良かったです。

また、テレビなどを通して世界の皆で五輪を盛り上げていると言うことが分かりました。

実際にオリンピックの競技を見に行くことはできませんが、八日の日には、長野市に行き太鼓を叩きます。少しでも、オリンピックのに参加をして応援したいと思います。

一生に一度の良い思い出が出できて良かったと思います。

今後も心豊かな文化の伝統をもつ竜丘の発展のために、微力を尽したいと存じます。よろしくお願いします。有難うございました。

ヤブ蚊

ちょっと遠くの話題になる。一九九五年に沖縄県で起きた少女暴行事件を端に、再燃した沖縄米軍基地問題は、名護市沖合の海上ヘリ基地の建設可否でゆれている。

当地では市民投票が行なわれ、二千三百票差で基地建設「反対」が過半数を上廻った。しかし市長の建設賛成の表明。その上、市長辞任による市長選挙と混乱した。当の海上ヘリ基地問題は大田沖縄県知事の意志表明へと、争点が移った。

この基地問題で国は次の様にした。基地の建設と地元の振興策を一緒にしている。もし基地の建設ができなければ振興策も凍結する。反対に基地が建設できれば振興策も進めると。いわゆる『アメとムチ』作戦。ここで強者は国、弱者は沖縄。これって一種のいじめではないだろうか。

話は変わるが近年いじめの問題が、マスコミをにぎわしている。また、子どもを中心とした残酷な事件が多くなった。とかく子どもの世界だけの問題として扱われ「今の子どもはわからない。」と人々は嘆く。

しかし、子どもだけの問題なのだろうか。先程あげた国と沖縄のことをいじめとしたのはオーバーかもしれないが、今私たちが住んでいる社会でもいじめ、矛盾、不平等が多くある。今、世間で注目されている金権腐敗の政治もその一つであろう。それらのことが、なくなっていかない限り、いじめの問題も根本的に解決していかないのではないか。

子ども、子ども、というよりは、まず自分たち、大人社会を点検していった方がいいと私は思う。

老若男女　みんなで楽しんだ ニューイヤーコンサート

今年で三回目のニューイヤーコンサート。公民館の二階の会場はいっぱいの盛況。当日は、朝から吹雪のような悪天候。でも、集まった人たちは、満面に喜びを表していました。

去る一月二十四日(土)午後三時から竜丘公民館で第三回の新年の集い「ニューイヤーコンサート」が行われました。

当日は、昼頃から吹雪の荒れた天候で、会場に人が集まるか心配でしたが、その心配は全く無用、百二十名を越す盛況でした。

木下館長の「今年一年、明るい年になるよう、楽しいひとときを過ごしましょう」のあいさつで幕を開けました。

さつき会のみなさんによる大正琴の演奏

「さつき会」の皆さんの大正琴の「かえり船」「荒城の月」演奏。会場内は華やいだ音に包まれました。

「松原音楽教室」のハンドベルの演奏は愛らしく、拍手が盛んに起きました。

第一回から参加している「駄科ハーモニカクラブ」は、ユニフォームは勿論、呼吸もぴったり。つい幼い日の情景を思い出しながら、曲を一緒に口ずさんでいる方々もいました。

今年初めて参加の「竜丘コーラス」は、日ごろの練習の成果を披露して楽しませてくれました。

いつも、軽快なカントリーウェスタンを聴かせてくるれトップキャッツの面々、陽気な曲に場内から手拍手まで誘い出していました。

「ハンドベルを楽しむ会」は、この催しを回覧板で知っての出演。実に楽しい演奏でした。

「親子手話教室」のみなさんは、年間十二回教室で勉強された手話を「四季の歌」で発表され、場内の拍手は一段と高まりました。

「ゆうがお」の皆さんの演奏は、今年も地元の民話を題材にして楽しませてくれました。

最後に琴の三人の演奏が始まると、場内は静まり返り、琴の音色に魅了されてしまいました。

閉幕の間近、田中市長が来場、場内から一斉に拍手。市長も一緒になり、全員で五輪のテーマ曲「WAになっておどろう」の合唱。場内のムードは最高潮に達しました。

最後に、市長からのメッセージをいただき、二時間半余の「ニューイヤーコンサート」を閉じました。

窓の外は、雪がしんしんと降っていたが、場内は、だれの心も暖かく、満足感でいっぱいのようでした。

多くの方々の協力で、第三回目のこの催しが、大成功だったことを喜び合い、それぞれの発表についての感想などを語り合いながら楽しい懇親会をして、雪道を家路につきました。

松原音楽教室の子供たちによるハンドベル演奏

二十歳をスタートに 今までと違う私を目指して

駄科　伊東 めぐみ

今年四月短大を卒業し、老人施設へ就職することになりました。二年前、短大に入学したときは保母を目指して学ぼうと決めていましたが、幼児教育・社会福祉の勉強と実習を同時進行していくうちに保母から介護士になりたい！と強く思う様になりました。

その理由も一年生の時にスタートした毎週土曜日・日曜日に朝七時三十分から午後二時までのボランティアで、私の心を引きつけるものがあったからです。

ボランティアや授業の一環で行う実習を通して「本気で老人施設で働きたい」と思い、親に話を持ち出したのは、二年生になってすぐのことでした。はじめはとても驚いている様でしたが、母も元看護婦であり、介護士・看護婦の仕事内容は多少違っていても夜勤の仕事の大変さ、力のいる仕事の大変さなどよく理解してくれていた為、最終的な結論は「本気でやりたいと思っているならやってごらん。めぐの性格なら大丈夫」の言葉でした。この言葉をきいたとき仕事・生活の面で大変迷惑かけると思いますが、私自身満足の出来る仕事を精一杯行ないたいと思いました。

『社会的弱者の痛みに敏感であり、その人権を守る担い手であれ』の言葉を目指して頑張ります!!

又、今まで両親をはじめ、家族皆に心配ばかりかけてきた分、精一杯の根性と努力で家族皆を安心させてあげたい。

世界へ響け！〝鈴岡太鼓〟

日曜日の午後、竜丘小学校体育館から竜丘じゅうに響く太鼓の音。

長野五輪を和太鼓で盛り上げようと鈴岡太鼓の皆さんの練習にも力が入る。

二月八日、表彰式会場となる長野市セントラルスクエアーを中心に、長野市中央通り四・五丁目を歩行者天国にした場所で、長野県太鼓連盟に加入している太鼓連の仲間二千人が集まり、揃え打を行う。今は各地でそれぞれに練習をしている。

五輪文化プログラムの一つになっており、五輪を見に来ている外国人を始め多くの人々を和太鼓で迎える。

当日の演目は「勇み駒」「信濃田楽」「万岳の響き」の三曲。

会長の塩沢隆さんは、「南信からも長野五輪を盛り上げていきたい。今は駄科が中心にやっているが、いずれは竜丘へ太鼓の輪を広げて行きたい」と意気込みを語って下さいました。

竜丘消防団、無火災賞受ける

去る一月十一日、飯田文化会館に於て挙行された飯田市消防出初め式の中で、竜丘分団が飯伊消防協会長から分団無火災賞を受賞しました。

この賞は規定された期間、地区内から建物火災が発生しなかった分団に対して贈られる賞で、なかなかいただけない賞です。

期間についてはそれぞれの地区の住宅の戸数によって規定があり、戸数が多いと半年、少ないと一年間など公平になっており当地区は一年になっています。

たった一年と思われる方もいらっしゃるでしょうが、実際大変にむずかしく今回受賞した分団は竜丘、松尾、伊賀良だけでした。

なぜむずかしいか、といえば例え壁を少し焦がした程度の小火でも建物火災と記録されればカウントされてしまうため消防団が出動しなくても火災扱いされることもあるのです。

しかし無火災といっても結果としての問題で、消防団ががんばっただけでは火災の発生が防げる訳ではありません。

家庭や、防火防犯委員会など地域ぐるみで防火意識の高揚をはかることが大切で、今回の受賞も竜丘地区全体にいただいた賞といえます。今後も家庭の中から防火に取り組みましょう。

〝エルニーニョ現象〟って何だ

〝エルニーニョ〟はスペイン語で「神の子」という意味である。

南米ペルーでは、毎年十二月になると、沿岸に北から暖流が入り、水温が上昇する。地元漁民はこの現象をクリスマスにちなんでエルニーニョと呼んでいる。

一九五〇年代に入って海洋の観測網が整備されたおかげで、ペルー沖だけの局地的なものとは別の、ペルー沿岸から赤道沿いに、東太平洋の日付変更線付近まで水温が上昇する大規模な現象で、特に「エルニーニョ現象」と言う。

エルニーニョ現象が発生すると、それまでフィリピンなどの西太平洋域にあった対流活動の活発なところが日付変更線付近に移動するために、赤道に沿う東西循環も移動する。その結果、場所によっては大気の上昇流域が下降流域に変わる。インドネシアやフィリピンは、対流活動が活発で上昇流は強く、世界でも有数の多雨国だが、エルニーニョにより下降流が強まり、一転して干ばつに襲われる。

また、大気循環の南北循環も変わるため、中・高緯度地方を吹く偏西風帯を乱し、例えば赤道付近の大気は、海水に暖められると激しく上昇し、亜熱帯地方で下降するので、北太平洋高気圧が発達する。その影響でアリューシャン低気圧が発達し、次にアラスカ高気圧が発達して、アメリカ東部に寒波が吹き出すなど、世界各地に異常気象をもたらす。

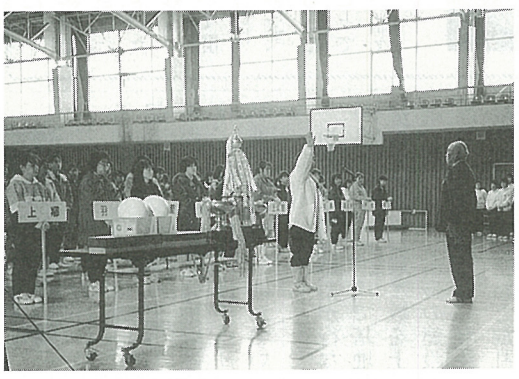
平均五年に一度の割合で発生している。現在では、エルニーニョという言葉は、本来の意味に用いられるよりも、数年に一度の大規模な異常高水温現象をさすことが多い。

この異常気象により、私達の生活や農作物などに影響のない、無事な年であることを願いたい。

上川路チーム 大いに頑張る！

十一月三十日、上郷を舞台に、第十六回飯田市女性バレーボール大会が飯田市公民館内、十六チームが参加して開催された。今年度は、当番で上川路分館が竜丘公民館の代表として出場した。

事前の抽選で一番くじを引いたこともあり、選手・関係者の皆さんは、例年に増して、緊張して大会に臨んだ。更に、上川路チームが出場したAブロックは、伊賀良、松尾、山本というどのチームが決勝へ進んでもおかしくない一番の激戦であった。上川路チームは、この日に備え、一ケ月以上も前から週二回の練習を行ってきた。

当日は、第一試合で伊賀良と対戦し、二対〇のストレートで圧勝した。続く第三試合、対山本にも激戦のうえ勝利したが、得失点の差で、同じく二勝した松尾にわずかに及ばず、決勝リーグへは進めなかった。

三月一日に予定されているCブロック大会では、更なる健闘を期待したい。